

ふるさととくぢ

歓迎 大原湖さくらロードレース大会



Start!

～4月19日～

第27回大原湖さくらロードレース大会開催

目次

- 里山だより・歴史と民俗…2P
- とくぢで輝く・見てえーね聞いてえーね来てえーね…3P
- 行政だより…4P
- 行事カレンダー・地域拠点だより…5P
- ふるさと再発見・くらしのレシピ…6P



(2015年4月末現在)



Goal!



カブトの押絵教室

4月13日(月)、八坂分館で元泉仁怜永(もといずみ ひさえ)さんを講師に押絵教室が実施されました。

端午の節句に合わせたかぶとの押絵は、思いのほか、細かい作業に手間取ったようですが、皆、自分の作品に大満足されていました。

(取材：岡崎特派員)



5 児童の入学式

4月8日(水)、山口市立島地小学校で入学式が行われました。午前10時前、先輩児童や先生、保護者、来賓に拍手で迎えられ、新入児童5名が少し緊張した面持ちで入場してきました。

式では安村竹史校長が、「お願いしたいことが2つあります。1つめはすばらしい挨拶をしましょう。2つめはすすんで本を読みましょう」などと挨拶をされました。

(取材：粟屋特派員)



表紙の写真から



4月19日(日)第27回大原湖さくらロードレースが行われました。

前日からの雨もレース中は上がり、多いに盛り上がった大会となりました。

今年は選挙の関係で一週間後の日曜日になり、八重桜が数本残っている程度でしたが、選手は楽しんで走っていました。

レース後、豚汁の接待にも舌鼓を打っていました。

(徳地地域づくり協議会)

この地蔵さんには、次のような伝承がある。「子どもたちが地蔵さんの上に乗ったり、転がしたりして遊んでいたのですが、仏の罰を恐れた大人たちは子どもたちをひどく叱りつけた。ところが、地蔵さんは、子どもたちと楽しく遊んでいたのに子どもを叱ると



奥谷の石地蔵

地蔵菩薩 所在地 三谷字奥谷 三谷交流センター(元三谷小学校)前、川と道の接近した路傍のブロックの地藏堂に、像高約九〇センチの丸彫りの立像が納まっている。地蔵の頭部は欠失していて丸い石に目・鼻・口・耳を書いて載せてあって、右手の錫杖(しゃくじょう)は欠失。右手の宝珠を持つ手は手元から割れてなくなっている。



【路傍の信仰 十五】

は、何かと、地蔵さんが大人を叱ったという(奥野利夫氏談)

地蔵さんを「祈願や利益」の面から「西院河原和讃」(さいのかわらわさん)などで知られるように、この話は地蔵さんと子どもの結びつきが強いこと由来する。

路傍に立って、四季の石垣棚田を見守り、遊んでいた子どもたちもいなくなり、ブロックの堂に安置された、お地蔵さんは不自由であろうか?

石垣の棚田は、遠い昔から簡単な農具を用い、営々とつくってきたのである。驚くべきことは、労働の量はかりではない。より高い山の谷から筧(とい)や溝で運ばれてきた水を棚田の最上段から、段階状に重なる棚田のあいだに作られた微妙な傾斜と溝を通じて下り、途中の田圃(たんぼ)をこごとく潤して谷底に流れていく。一滴の水も無駄にしない灌漑(かんがい)が出来あがっている。

自然の条件を最大限に生かした棚田。細長い帯のような水田は、個人的な労働力の日常的な積み重ねによってかなりの人口が生活するのを可能にしている。(防長風土注進案でみる三谷の人口は、戸数三一八戸、人口一、一一七人)

とちで輝く

伝統の野菜 “やまのいも” に
新たな価値発見!

徳地やまのいも生産組合

■山芋の種類や特徴を知って・・・
山芋の種類は多く、とても分かりにくいのですが、すらすらと長い『長芋』や『自然薯』

■伝統の野菜の歴史は170年
徳地の特産品の中でも『やまのいも』は、およそ170年もの伝統があるといえますから、江戸幕府の最後の頃ですね。ご存知でしたか？幕末維新の頃に、こんなゴツゴツした山芋が栽培され始めていたなんて・・・



と比べて、『やまのいも』は、別名“仏掌いも”という通り、ゴツゴツとした人の手のひらのような形をしています。それに、おろすと、一番粘り気が強いのが特徴です。

■消費者の利便性を高める新製品開発

粘り気のある食品には免疫力を高める効果が期待できるとよく聞きます。モズク、メカブ、納豆、オクラ、それに山芋、等々・・・その特徴を活かした料理がありますが、やまのいもが美味しくて栄養があるのはわかっています。あの形状の皮をむくのは面倒だし、擦り下ろすとなんだか手が痒くなってきましたりして困っちゃいます。

そこで、生産組合では防府の鍋—1グランプリなどのイベントに皮むきした製品や擦



り下ろしてチューブに詰めた製品を新たに売り出して消費者の反応を見えています。消費者の購買意欲を高めてくれる利便性を高めた新製品に、やまのいもの新たな価値を感じてもらい、徳地の特産品としてさらに盛り上がってほしいですね。



(取材 徳地づくり達人塾、池田特派員)

問合せ先

やまのいも生産組合

〒747-1023

山口県山口市徳地堀

☎56-11301

■「もう出た?」「もう観た?」
5月の下旬になると、徳地の各地で交わされる挨拶です。何の話かと思ったら、ホタルです。今年はやまのいもが、遅いじやろうか。6月になれば、徳地の人はもちろんのこと、防府や周南、山口からも多くの人がやって来ます。今年はどこにたくさん出ているじやろうかという口コミ情報も求めながら。

一時期に比べ、佐波川閘水付近、三谷川流域、重源の郷入口付近、防府高校佐波分校裏付近、串遠内付近、島地川平橋付近、上村橋付近、など徳地の各地で多く見られるようになりました。

【参考】山口観光コンベンション協会徳地支部ホームページ
<http://www.tokudikankou.jp/>



楽しんでね、「徳地のホタル」!

■第10回ホタルの夕べ in 串

特に、串遠内(くしとうち)付近は県立大学の学生さんと地域の人たちが毎年、草刈りなどの準備もしてお客さんをお待ちしています。今年は、6月13日(土)午後4時から、柏餅やホタル籠作り体験や食事、ホタル見物など楽しい企画を実施します。



楽しいデザインですね、串のホタル籠

【問合せ先】

地域交流センター串分館

☎54-0222

ゆたかな串を育てる会

<http://www.c-abne.jp/>

showji-y/

行政犬より

元気な人こそ受けてほしい！ 「がん検診・特定健康診査」

がんや生活習慣病は、自覚症状のないまま進行しますので、元気なうちから検診を受診することが大切です。定期的に検診を受診することで、病気の予防や早期発見・早期治療につながります。

山口市では、各種がん検診や、国民健康保険加入者を対象とした特定健康診査を実施します。

ぜひ受診され、健康づくりにお役立てください。

★6月開始 医療機関での検診

徳地地域にお住まいの方は、山口市内の医療機関に加え、防府市の医療機関も受診できます。

○実施する検診名と実施期間

検診名	検診実施期間
子宮がん検診	6月1日～ 3月31日
乳がん検診	6月1日～ 3月31日
胃がん検診	6月1日～12月20日
大腸がん検診	6月1日～12月20日
肝炎ウイルス検診	6月1日～12月20日 ※
前立腺がん検診	6月1日～12月20日 ※
山口市国民健康保険 の特定健康診査	6月1日～12月20日 ※

※肝炎ウイルス検診・前立腺がん検診・山口市国保の特定健康診査は防府市内医療機関では受診できません。

○実施医療機関名及び受診方法

3月に各戸に配布した、「平成27年度健康づくりガイド」をご参照ください。

★検診車等で行なう集団検診

10月には保健センター・八坂分館・島地分館で集団検診を実施します。

子宮・乳・胃・大腸・肺がん検診、山口市国民健康保険の特定健康診査を受診できます。

がん検診については、8月に自治会を通じて申込書を配布します。山口市国民健康保険の特定

健康診査については申込み不要です。

問合せ先 健康増進課健康づくり第三担当
☎52-1114

佐波川水系水質調査を実施しました

佐波川の清流を保全し後世に引き継ぐことを目的に制定された「佐波川清流保全条例」に基づき、平成27年2月3日、佐波川と島地川の6地点で水質検査を実施しました。

今回の調査結果については総務課で閲覧できます。

問合せ先 総務課総務担当
☎52-1111

佐波川河川サポーター募集

日常生活の中で気づいた河川に関する情報を、気づいた時に電話やメールで河川管理者に伝えていただくほか、河川愛護思想の普及・啓発活動をボランティアで行っていただく「佐波川河川サポーター」を募集します。

◎応募要件

山口河川国道事務所が管理する佐波川の近隣で生活をされている方、河川に関心をもち、河川に接する機会が多く、河川に親しんでおられる方。

◎任 期

平成27年7月1日から2年間

◎募集人員

活動範囲（2～5km）ごとに数名 ※応募多数の場合選考

◎応募方法

任意様式に下記事項を記入のうえ、郵送、FAX又はメールにて応募してください。

○住所、氏名、年齢、電話番号、所属する団体等あればその組織名、役職、活動内容、日常的な河川の利用内容とその頻度、応募理由、佐波川の感想及び要望

◎応募期間

平成27年6月1日（月）～平成27年6月19日（金）

応募・問合せ先

〒747-8585
防府市国衙1-10-20
国土交通省山口河川国道事務所 河川管理課
☎22-1890 FAX: 22-6705
E-mail: yamaguchi@cgr.mlit.go.jp

行事カレンダー

(5月15日～6月15日)

5月

19 憩いステーションとくち
火 (問) 基幹型地域包括支援センター徳地分室 ☎52-0670

20 認知症者を支える家族の会
水 (問) 基幹型地域包括支援センター徳地分室 ☎52-0670

27 出雲地区ラジオ体操ウォーキング
水 (問) 出雲地域づくり協議会 ☎52-0217

6月

4 定例健康相談・介護予防相談
木 (問) 健康増進課健康づくり第三担当 ☎52-1114

7 セラピーロード自然観察～観音の滝と森林の美～
日 (問) 森の案内人の会事務局 (徳地農林振興事務所内) ☎52-1122

10 母子健康相談
水 (問) 健康増進課健康づくり第三担当 ☎52-1114

14 森のノルディックウォーキング～棚田の里巡り～
日 (問) 森の案内人の会事務局 (徳地農林振興事務所内) ☎52-1122

子育て支援センター
すくすくハウス予定 ☎52-0662

5月/22日(クッキング) 28日(お誕生会)
6月/9日(絵本読み聞かせ)
など、毎週、火・木・金曜日楽しい遊びをしています。

休

図書館 5月/18・25・28
休館日 6月/1・8・15

(取材:栗屋特派員)

お花見です。
お地蔵様も春の陽気に誘われて



ギ
ャ
フ
オ
ト
ラ
リ
ー

+ 休日・夜間診療のご案内(防府市内)

*山口市内は市広報に掲載しています。どちらも利用できます。

【内科・小児科】(受付 8:30～11:30、13:00～16:30)

防府市休日診療所(鞠生町)☎0835-24-4172

【歯科】(受付 8:30～11:30)

防府市休日診療所(鞠生町)☎0835-24-4172

【外科】当番医療機関(診療 9:00～17:00)

5月17日(日)黒田クリニック(田島) ☎24-9090

24日(日)くらしげ整形外科クリニック(田島) ☎25-0076

31日(日)しみず医院(栄町) ☎38-8883

6月7日(日)たかきクリニック(台道) ☎33-1050

14日(日)緑町三祐病院(緑町) ☎22-3145

【夜間救急病院】(平日、土日にかかわらず)

病院名(場所)	電話番号	5月・6月の開設日						
松本外科病院(天神)	☎ 22-1409	15	20	25	30	4	9	14
防府胃腸病院(駅南町)	☎ 22-3339	16	21	26	31	5	10	15
桑陽病院(車塚町)	☎ 23-1781	17	22	27	1	6	11	
緑町三祐病院(緑町)	☎ 22-3145	18	23	28	2	7	12	
三田尻病院(お茶屋町)	☎ 22-1110	19	24	29	3	8	13	

地域拠点だより

「ふれあい郵便」の継続実施



「ふれあい郵便」は、平成7年に徳地地域内郵便局と社会福祉協議会が協定を結び始めた福祉事業です。

当時、山口県では珍しい施策であり、テレビのほか多くのメディアに取り上げられました。

施策内容は、筆耕ボランティアグループが、1ヶ月に1度季節の便り等をはがき裏面に書き、宛名を書いて、「ふれあい郵便」のスタンプを押して差出し、郵便局は配達時に安否確認を行うというものです。

対象は、75歳以上の独り暮らしの方であり、最も見守りが必要な人たちです。

現在まで20年近く実施していますが、受取人の多くから感謝の言葉が寄せられています。

山口市においても、昨年の8月「高齢者そっと見守り事業」を立ち上げ、山口市内郵便局と連携協定を結んでおり、高齢化が進む徳地地域においては、無くてはならない施策となっています。

しかし、4月の社会福祉協議会の機構改革により、この施策の継続が難しくなりましたので、徳地地域づくり協議会の安心安全福祉事業として継続実施することになりました。

(徳地地域づくり協議会)

中学生の体力向上策

徳地地域内の中学校が統合し、10周年を迎えようとしています。

生徒たちも、部活や勉強に大変頑張っていますが、旧堀中学校区以外の生徒は、スクールバスで通学しており、体力が低下してきたと校長先生より相談を受けました。



そこで徳地地域づくり協議会では、体力向上の一助になればと、社会教育文化事業として、生徒全員と先生方に歩数計を贈呈しました。

徳地中学校ではそれを活用し、学校独自の施策を行い体力向上に努めていただきたいと思います。

(徳地地域づくり協議会)

くらしの しじい

ふるさと再発見 ～幕末維新と徳地～

麩のサク菓子



材料

麩	30g
バター	大さじ2(植物油でも良い)
きび砂糖	30～40g
塩	少々

作り方

- ① 鍋にバターときび砂糖を入れ弱火で溶かす。
- ② フライパンに麩を入れ2分程度から炒りし軽く水分をとばす。
- ③ ②に①を少しずつまんべんなくかけ、弱火で炒りながらしみ込ませる。
- ④ 塩をふり、味を整える。

一口メモ

バターの風味がふわっと、さくっと口にひろがります。

草莽崛起を訴えた隊則「諭示」

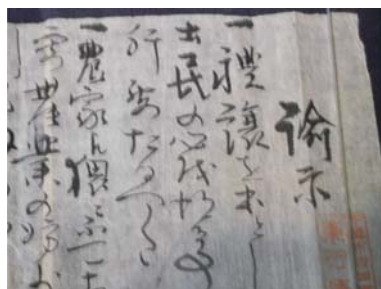
今回は、正慶院で発せられた有名な「諭示^{ゆじ}」についてお話します。

元治元年(1864年)10月20日(旧暦)、三田尻から転陣をしてきた奇兵隊・膺懲隊は、堀地区で戦闘態勢に入りました。そして堀の伏野と小古祖で剣撃訓練、銃陣訓練(奇兵隊日誌)を行います。長い間、静かな生活が続いてきた徳地の人々には、突然にやって来た諸隊の姿はどのように映ったのでしょうか。「銃を持った怖い軍隊?」「ならず者の集団?」きっと多くの人々が恐怖や不安・不信におののいたことでしょう。



諸隊の本陣跡案内柱

しかし下関戦争で従来の武士集団では戦えないことを知った高杉晋作は、身分を離れて「志^{こころざし}」のある者が銃を持って戦うことを考えました。吉田松陰の「草莽崛起^{そうもうくつき}」とそれを支える人々の出現を願ったのです。徳地へやって来た奇兵隊・膺懲隊の幹部たちは、自分たちがどのような姿勢でこれから戦おうとするのかを示すため新しい軍隊規則を作りました。これが「諭示^{ゆじ}」です。そして本陣とした正慶院に幹部を集めて書き写させ、全軍の一人一人に徹底させたのです。全文が8条で出来ています。概略は、「みだりに農家に立ち寄らず、牛馬などに道で出逢ったら、道べりによけて早く通らせること」「山林の竹・木・櫨^{はぜ}・楮^{こうぞ}はいうまでもなく道べりの草木も切り取ってはならぬ」など、当時では考えられないほど農民に細かな配慮をし、「戦うためには人心をつかむことが大事。人心をつかむためには各人が正しい行いをし、人々がそれを見習うようにしなければいけない」と、至誠を訴え人としての生き方を強く示したものでした。



諭示 (東行庵)

維新を成した4藩(長州・薩摩・土佐・肥前)の中で、民衆が銃を取って戦ったのは長州藩だけです。官民挙げて諸隊を支え、後に多くの若者が銃を取った徳地は、吉田松陰が訴えた草莽崛起^{そうもうくつき}を初めて本格的に受け入れた所でもあります。

明治維新を語る上で誇るべきエピソードです。

(徳地幕末維新歴史放談の会 代表 山田 文雄)

発行 徳地地域づくり協議会

〒747-0231 山口市徳地堀 1533 番地 ☎0835-52-0217

[HP] <http://tokujichiiki.com> [e-mail] tokuji@tokujichiiki.com

企画編集 徳地づくり達人塾

[HP] <http://tokudzukuri.soreccha.jp/>

(印刷 株式会社ティーピーエス)